

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	16214
課題名	持続大腿神経ブロックチュービングにおけるオーバーザニードルカテーテルの有用性の検討
研究期間	倫理委員会承認日から平成 34 年 3 月 31 日まで
利用する情報、検体	☒ 診療情報（詳細：性別・年齢・BMI・ASA・手術中の鎮痛薬使用量・神経ブロックカテーテル刺入部の薬液漏れの有無・術後の疼痛評価・術後の鎮痛薬使用するまでの時間、術後の下肢の運動機能評価） ☐ 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ☐ 血液 ☐ その他（ ※以下の期間に収集した情報、検体が対象となります 西暦 2015 年 4 月 1 日 ～ 2016 年 12 月 31 日
研究の意義、目的	持続末梢神経ブロックには長期間、継続的に鎮痛を得る事ができる利点がある一方で、カテーテルの事故抜去、カテーテル先端の位置異常、刺入部周囲からの薬液漏れなどの問題点が知られている。神経ブロックカテーテル留置の従来の方法は、カテーテルを針の中を通して体内へ誘導する(over the catheter : オバーザカテーテル)であるのに対して、Contiplex C® (コンチプレックス C) は留置カテーテルを針の外側に位置させて体内へ誘導する (over the needle : オバーザニードル) であるため、カテーテル挿入部位からの薬液漏れや事故抜去、位置異常が起こりにくいと期待される。本研究では Contiplex C®(コンチプレックス C)の有用性を後方視的に検討する。
研究の方法	2015 年 4 月～2016 年 12 月の間に当院で施行された、片側の人口膝関節置換術に対して坐骨神経ブロック＋持続大腿神経ブロックで術後鎮痛を行った患者様が対象。診療情報（性別・年齢・BMI・ASA・手術中の鎮痛薬使用量・神経ブロックカテーテル刺入部の薬液漏れの有無・術後の疼痛評価・術後の鎮痛薬使用するまでの時間、術後の下肢の運動機能評価）を電子カルテから調査して、従来の神経ブロックに使用していたカテーテル(over the catheter)と Contiplex C® (over the needle) の比較検討を行う。
その他	本研究に団体・企業等とは関与しない
個人情報について	利用する情報からは、お名前や住所など、個人が特定できる情報は削除して取り扱いますので、個人情報が外部に漏えいすることはありません。研究成果発表（学会発表、学術論文への投稿）の際にも、個人が特定できる情報は利用しません。
問い合わせ等の窓口	所属：旭川医科大学麻酔科蘇生科 氏名：和泉裕己 電話番号：0166-68-2583